

事務所ニュース

労働保険事務組合
第一労務協会

京都市西京区嵐山宮ノ北町8番18
TEL. (075) 864-3336
FAX. (075) 864-3367

〒616-0025

社会保険労務士 光木事務所

スポット

高齢労働者の労働災害が男女で増加 改正労働安全衛生法が国会で成立

60歳以上の高齢者の労働災害（以下、労災）が男女を問わず増加していますが、高齢労働者の労災防止を盛り込んだ改正労働安全衛生法が通常国会で成立しました。

厚労省の「2024年の労働災害発生状況」によると、労災（新型コロナウイルスを除く）の死亡者数は746人と過去最少となりましたが、休業4日以上の死傷者数は13万5718人（同347人増）で、4年連続で増加しています。要因別では高齢労働者の死傷災害が増え、特に高齢女性の死傷災害も増加しています。2024年の雇用者全体に占める60歳以上の高齢者の割合は19・1%（1171万人）を占めていますが、60歳以上の

死傷者数の割合は全体の30・0%（4万654人）に達しています。

60歳以上の死傷災害発生率（死傷度数率＝百万労働時間当たりの災害発件数）は2・41。30代は1未満であり、60歳以上の男性は30代の約2倍、女性は約6倍の発生率です。いったん労災が発生すると休業期間も長く、年齢別の休業見込みの長さも加齢とともに上昇し、2カ月以上の休業の割合は30代は20%ですが、60歳以上は30%を超え、男女に関係なく、労災が発生したときの重篤度は加齢に伴って高くなります。

通常国会で成立した改正労働安全衛生法では、現行法の第62条に第2項を追加。「厚生労働大臣は、前項の事業者が講ずべき措置に関して、

その適切かつ有効な実施を図るため必要な指針を公表することとし、当該指針に従い、事業者又はその団体に対し、必要な指導、援助等を行うことができる」としています。指針には現行の「エイジフレンドリーガイドライン（高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン）」に基づき、①安全衛生管理体制の確立、②職場環境の改善、③高齢労働者の健康や体力の状況の確認、④高齢労働者の健康や体力の状況に応じた対応、⑤安全衛生教育——の5つが盛り込まれる予定です。法律の施行は2026年4月1日です。労災防止の取組みが不可欠でしょう。

2025

9

第21回 雇用年齢の上限なし、地域の高齢者を積極採用

高齢者雇用に どう向き合うか

戦力化と
生産性向上を目指して

人手不足解消の方策の一つとして高齢者雇用が注目されています。近年では雇用年齢の上限を設けないで元気であればいつまでも働ける企業も登場しています。今回はシニアを対象に募集し、雇用上限なしに柔軟な働き方ができる仕組みを導入している観光型施設を運営するA社の事例を紹介します。

A社は全国でカット野菜の生産・販売を行っている会社です。2006年に高齢者雇用や地域活性化の課題解決に取り組む目的で岐阜県の本社敷地内に、農業・商業・観光・文化・教育活動の一体型施設をオープン。施設ではレストラン、パン工房、地域特産物の販売、焼酎の製造・販売など幅広い事業を運営しています。施設で働く従業員は約100人。うち65歳以上は51人で、最高齢は85歳です。当初から経験豊富なシニアを主体に始めようと考え、人生の第二の挑戦として生きがい、やりがいをもって働きたいという人を対

象に募集しています。

柔軟な働き方が可能で雇用の

本人の都合で働き方も柔軟 健康状態を職場で共有

上限年齢ありません。施設の従業員は正社員15人。シニアは主に非正規のスタッフです。営業時間が朝8時半から17時。朝7時半に出勤し、調理などの準備をする人など本人の都合に合わせて3時間勤務の人もしあれば、週1日勤務、5日勤務の人もあります。同社の人事担当者は「週1日を選択しても

随時変更できます。妻が入院した、あるいは介護が発生したのでしばらく休みますという人など、それぞれの事情に合わせて柔軟に対応している」と言います。時給の設定は専門性の高さで決定します。忙しい時期はレジが大変なので高めに設定し、秋には繁忙手当も支給しています。支配人が一人ひとりと面談し、今の仕事からこんな仕事もできるようにすれば時給も上げますよと、意欲

を鼓舞するようにしています」「人事担当者」
支配人は必ず毎日少しでも変化し、自分が成長していくことを実感してもらうことを心がけているそうです。「高齢者だから決まったことしかやらないのではなく、次々と新しいことを覚え、覚えたらまた別のことに挑戦してい

く。たとえば商品を何個売るとかの数値目標を持つなど、今日の仕事で何か一つ目標を持ってやることで変化を感じ取ってもらうことが施設や会社の成長につながると思っています」「(人事担当者)。忙しい時期は施設内だけで普通に1万5000歩も歩くなど、体力、気力も必要な仕事ですが、勤続年数も長く、オープン当初から働いている人などほとんどが10年以上勤務しています。

健康や安全も気になります。「採用面接のときにざつぱらんにどこが悪いところはないか、飲んでいる薬はあるかを聞いています。その上で公表できる人には職場で共有するようにし、職場にも伝えます。ある程度健康状態を仲間内で共有することで、忙しいときは薬を飲む時間よね、水を飲んできたら、とお互いが声を掛け合うようにしています」「(人事担当者)。職場内のコミュニケーションがうまくいっているからこそ健康状態の把握もしやすくなると言います。